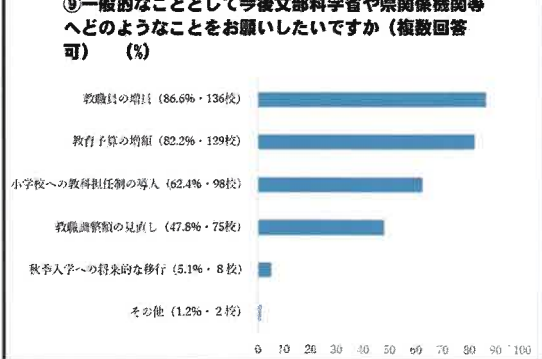
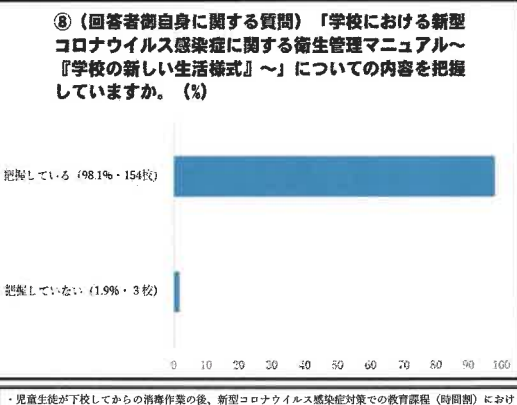
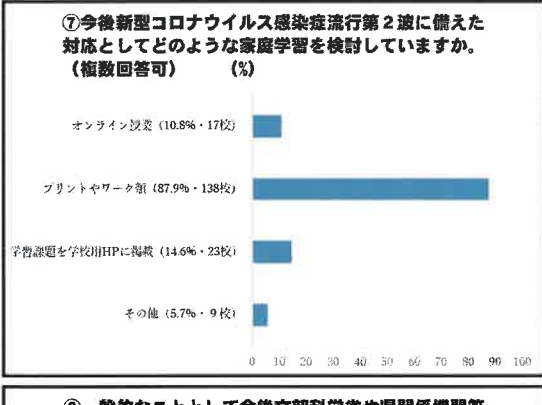
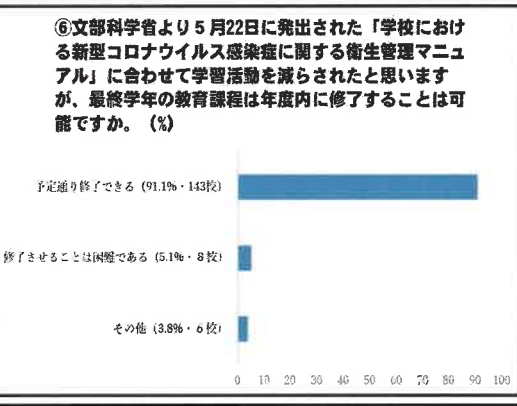
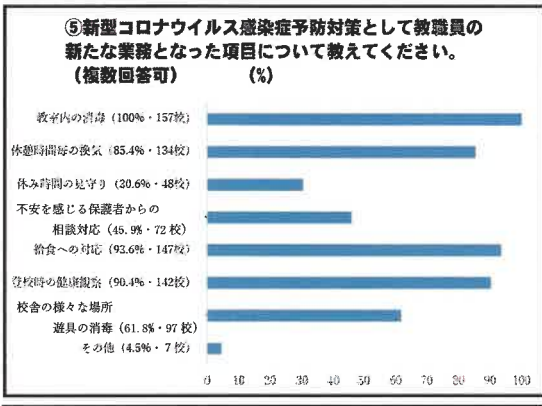
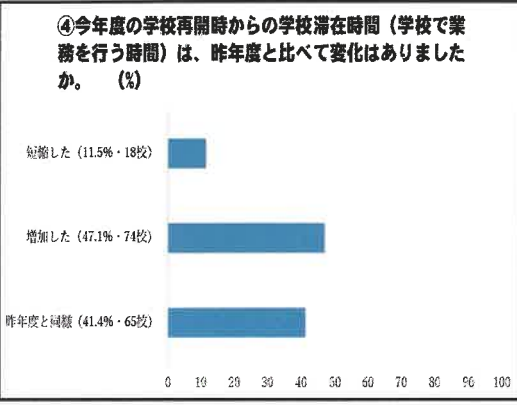
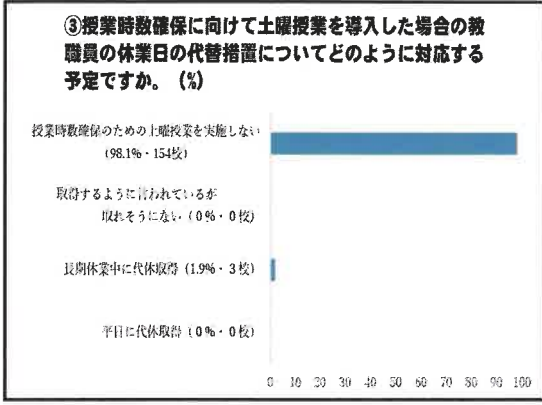
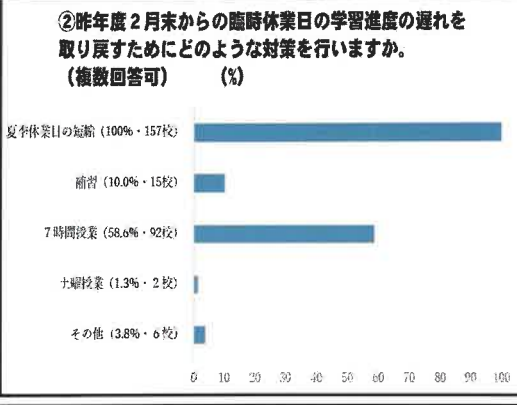
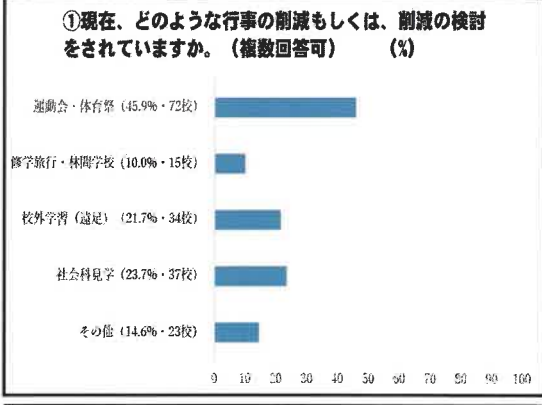


令和2年度「学校における新型コロナウイルス感染症対応に関する実態調査」について

香教連・各単組行事の様子、御案内

これまで、文部科学省は学校における新型コロナウイルス感染症対策等について、令和二年三月二十四日に発表した「学校再開ガイドライン」や、「教育活動の再開等に関するQ&A」等の通知において、留意事項を示してきた。特に令和二年六月五日に文部科学省から発出された「新型コロナウイルス感染症に対応した学校運営に関するガイドライン」や「新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の『学びの保障』総合対策パッケージ」においては、児童生徒の効果的な学習方法として、時間割編成の工夫や長期休業期間の短縮、学校行事の重点化や準備時間の短縮、土曜日の活用等も学校における指導を充実させるための工夫として示された。

そこで、新型コロナウイルス感染症への対応によって増加した業務や教育課程の工夫等について調査し、教職員の新たな勤務実態を把握する。調査結果については、全日教連・香教連において検討し、国や県に対して要望活動を行うエビデンスとする。



・児童生徒が下校してからの消毒作業の後、新型コロナウイルス感染症対策での教育課程(時間割)における授業準備や成績処理(プリント・テスト類の丸付け)等の業務を行うため、昨年度より学校滞在時間が上昇した状況となっている。

・香小研や香中研において、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年と比較すると負担が増えたが、香小研や香中研(中四国大会や四国大会、県大会等)の教科・教科外の業務が入ってくることで、勤務している学校の業務に上乗せした形になっている(学校で取り組んでいる研究テーマと異なる研究テーマで取り組まなければならないこと、香小研や香中研のための発表原稿の構成や指導案・教材作成、提案資料の作成、準備や事前打ち合わせ、運営計画等、勤務校業務以外の時間を相当費やすことが常態化している)。

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校行事や各会議の削減や効率化が図られた。(業務改善が図られたことについては、今年度のみ特別ではなく、来年度以降も継続してもらいたい。)

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年度末ならびに今年度当初全ての小・中学校が休校となり、その期間の学力の措置として、ほとんどの課題を児童生徒に紙媒体で作成し配布した現状がある。部数の印刷や配布するための意投計画(各学年の時間差意投等)等、緊急事態における対応として、効果的・効率的ではない。ICT環境が整備されているれば、緊急事態においても、児童生徒や教師が危険を冒さなく効果的に対応できた可能性が高い(東京都や私立校等、すでにICT環境が整備されている事例を見ると)、GIGAスクール構想の環境整備は、必要であると感じた。

I 回答結果
香川県内小学校二二二校
中学校三六校
高等学校〇校
特別支援学校〇校

II 設問
勤務されている学校の状況について、あてはまるものを回答してください。

